

「あめ玉」（光村図書 5 年生）の指導について

尾道市立高須小学校 山崎千佐

（１）教材について

本教材は、巻頭教材のレディネス教材的な扱いである。高学年になって初めての巻頭教材であり、文学的な文章の読み方を学習させることができる。

初めて読んだ時から、読者は急展開する物語に引き込まれるであろう。物語は、春の穏やかでのんびりした舟の上でどこにでもありそうな子どもたちの会話から始まる。子どもたちの会話に侍を気にしながらも気にしている母親に、だれもが寄添いながら読んでいくと考える。そんなときに、ちょっと怖そうな侍と一緒にになったら、誰もがついていないなと感じ、侍とは距離を置き、そおとしたいのに、そんな時に騒ぎ出した子どもに母親はドキッとしたに違いない。侍が目覚まし、刀をそっと抜いたとき、まさかと母親は思ったであろう。あめ玉を２つに分けた侍に対して、ホッとする反面侍のことを疑ってしまった母親の気持ちに共感する読者も多いだろう。

教材を読み深めていく際は、意外な展開を楽しむ一方で、展開の根拠となる箇所に着目させながら読ませていきたい。展開がはっきりしているので、後半のクライマックス部分をかくして仕掛けを作り、想像させることも可能な教材である。また、読み方を教えていく上で、物語の構造がはっきりしており、展開がつかみやすいため、物語の構造についても考えさせることができる教材である。

また、新美南吉の作品は下学年で、「手ぶくろを買いに」「ごんぎつね」を学習しており、これらの作品に出てくる共通な登場人物（母親）と比較したり、新美南吉の作品を読み比べたりする学習も考えられる。

（２）学習目標について

① 価値目標

国語科「読むこと オ」では、「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」が指導事項になっている。道徳の指導の関連事項としては、４－（３）「家庭愛 家族を大切にしたい」２－（２）「思いやり 親切 相手のことを思いやり、親切にする」が挙げられる。そこで、価値目標としては、「自分を取り巻く現実や経験と照らし合わせについて考えを深める。」とする。

② 技能目標

（ア）関連する学習指導要領の指導事項の中心は、読むことエ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」、オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと。」である。

（イ）これらの指導事項を受け、本単元では、「登場人物の相互関係や心情を、自分の考えでまとめること。」「複数の本や文章から、書き手の意図とされていることを見つけること。」を中心に指導する。物語文は、登場人物が影響を受ける人物または出来事がある。何かによって登場人物の心情が変化していくのである。

（ウ）さらに他の新美南吉の作品と読み比べ、作者新美南吉が読者に伝えたかったメッセージを読み取ることも入れたい。なぜなら新美南吉の作品には南吉の生い立ちから生み出された世界が描かれており、登場人物に着目して読むことで共通点を生み出すことができると考えるから

である。

③態度目標

物語全体を短時間でとらえ、物語の構造についてとらえさせる。また、登場人物に着目して読むことで、人の考え方には、それぞれに違いがあることを知り、自分の考えや生き方についても触れることができる。

(3) 言語活動と活動目標

活動目標を「新美南吉の母親像をさぐる」と設定する。「あめ玉」には、主な登場人物として母親と子どもの関係が描かれている。その関係に着目して読むことを確認し、「あめ玉」の読解をする。「あめ玉」を読み取った後に、登場人物を比べる視点を明確にし、情報を整理していく。

(4) 方法と評価

活動目標＝単元名（新美南吉の母親像をさぐる）（全4時間）

	言語活動	学習目標	評価方法
導入 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・題名読みや作者について知っていることを出し合う。 ・文章全体を読み取り、登場人物の人柄について読み取る。 <p>（ここでは、侍が刀を抜きかけたところで本文をきり、先を想像させる。そこで、文章全体に興味を持たせる。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題名読みをし、物語を想像する。 ・新美南吉の作品で知っている物語を出し合い、登場人物に着目させる。 ・「あめ玉」を聞きながら、再話をしながらシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あめ玉」の再話シートを完成させることができる。 （再話シート有り） <記入例> ・登場人物 ・時代背景 ・場所 ・出来事など
展開 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の構造分析を行いながらクライマックス部分を探す。 <p>（6つの定義を押さえ、定義にそって文章を読ませていく。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の構造分析を行う。 冒頭・発端・山場の始まり クライマックス（山場）・結末・終わりの6つに分けて分析を行う。 登場人物の関係をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主人公を母親⇔対立相手を</p> </div> <p>母親の気持ちがどのように変化するかとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クライマックス部分の文章を見つけ、その理由を考えることができる。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・母親、侍、子どもの3人の登場人物について考える。 <p>図式化し、吹き出しに書かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの登場人物に言いたいことを伝えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれに言いたいことを書くことができる。 ・母親が事件を通して変わったところを考えキーワードで表すことができる。

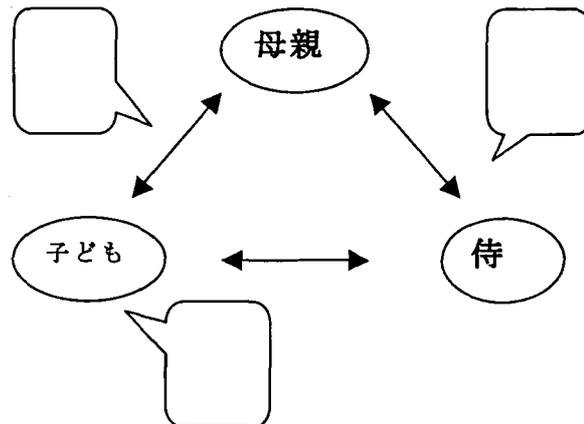
終 結 ④	・新美南吉の作品を読む比べ、 南吉が考えている母親像を探 る。	・「あめ玉」と「手ぶくろを買 いに」の母親を比較する。 ・共通点、相違点から南吉の 母親像について考える。	・共通点、相違点を見つけ ることができる。
-------------	---------------------------------------	--	--------------------------

(5) 最後に

必然の読みを目指して読むことの授業をどのように行えばよいか考えた。この指導計画は、実際5年生を対象に授業を行ったものである。本文は短いため全文を読み取らせることができる。そこで、本文に仕掛けを作り『侍が刀をすらりとぬいて、お母さんと子どもたちの前にやってきました。』のところで一旦切り、その後の物語について考えさせ、興味を持たせた。侍が刀を抜いた時児童の反応は2つ。1つ目は、あめを切るだろう。2つ目は子どもやお母さんを切りつけたら脅したりするのではないかということである。2つの意見が出ることで、侍の行動に着目させることができた。また、侍の行動の根拠を本文から探させることで、文章全体を読み取ることができた。

展開②では、物語の構造分析を行った。6つの定義によって文章を分けていった。そして、文章全体からクライマックス部分を探することで母親の気持ちの変化をとらえさせる。実際の授業では、2か所に分かれた。1か所目は、『お母さんはおそろおそろあめ玉をだしました。』のところで2か所目は、『さむらいはそれを舟のへりにのせ、刀でばちんと二つにわかりました。』のところである。子どもが切られると心配していたがいずれもそうではなかったとわかったからという意見である。

展開③では、
それぞれの登場人物
について吹き出しに書
かせた。



それぞれの思いを書いて発表した。吹き出しに出された内容をキーワードにまとめ、それぞれの人物像をつかませた。

終結では、(終結は担任に任せてしまったので実践がない) 今まで学習してきた新美南吉の作品を思い出しながら、「手ぶくろを買いに」(三年下)の母キツネと「あめ玉」の母親像を読み比べ、南吉が人間に対してどのように考えていたのかについてふれることができればと思っている。